



静内二十間道路の桜並木

～ 7キロの行啓道路に2千本を超える桜が咲き誇る～



二十間道路は、和種馬の大型改良のために1872（明治5）年に黒田清隆が進言し、静内町（現・新ひだか町）から新冠町にまたがる地域に開設した御料牧場のための行啓道路。龍雲閣まで直線で約7km、幅20間（約36m）にわたって両側に約2,000本を超える樹齢100年のエゾヤマザクラなどの並木が続く。雄大な日高山脈を背景とした景観は我が国で類を見ないスケールとして知られる。